



理事長 大見英明

生活協同組合 コープさっぽろ

組合員への 「七つのお約束」が基本姿勢

はじめに

生活協同組合コープさっぽろ（以下「コープさっぽろ」）は、一九六五年七月に札幌市民生活協同組合として設立、同年一月一日に創業が開始されました。

その後、道内の各市民生協との統合を経て、二〇〇〇年に生活協同組合コープさっぽろに名称変更し現在に至っています。

二〇一二年三月二〇日現在、年間供給高は二、五三一億円、兵庫県のコープこうべに次ぎ、長年全国二位でしたが、二〇一〇年度決算で初めて首位となりました。事業所数は、札幌市西区発寒にある本部、地区本部六カ所、店舗数は二八市一七町に一〇七カ所を有しています。また、全道世帯数の過半数を超える組合員数一、三九一、五五二名（組合員組織率五二・一％）を擁する北海道全域をエリアとする生活協同組合組織で、その組織率からしても地域における社会的役割の期待は非常に高いものがあります。

全道組合員組織率

| | |
|-----------------------|-------------|
| 1,391,552名 (52.1%) | 2,670,572世帯 |
|-----------------------|-------------|

組合員数：2012年3月20日現在の登録数

世帯数：2011年3月末の住民基本台帳

「7つのお約束」

お約束 1

つねに、たしかな商品をお届けして組合員さんに「食の安全・安心」と「より豊かなくらし」をお約束します。

お約束 2

いつも組合員さんの「声」を大切に、組合員さんの願いを実現していく事をお約束します。

お約束 3

組合員さんが「くらしの安心」を願い、互いに学びあい、協同することのお手伝いをお約束します。

お約束 4

誠実に事業を進め、つねに経営を公開し、組合員さんの共通の財産を守っていくことをお約束します。

お約束 5

道内の生協と連帯し、道民生活の向上、道内産業の発展に貢献していくことをお約束します。

お約束 6

地球環境を守り、また福祉・助け合いにあふれた地域づくりに貢献していくことをお約束します。

お約束 7

平和で、人間らしい「豊かなくらし」を実現することに貢献していくことをお約束します。

コープさつぽろの事業と活動

コープさつぽろは、組合員への「七つのお約束」を基本にして、組合員、役職員が共に手を携えて「暮らしの安心」と「より豊かなくらし」のために平和を追求し、人間を尊重し、地球環境を守り、福祉と助け合いにあふれた地域づくりに積極的に取り組んでいます。

コープさつぽろの多彩な取り組み活動の一端について紹介します。

地域・社会活動

◇ 「買い物難民」の解消に向けて

高齢化・過疎化が進む地域の課題の一つに、小売店の閉店・撤退による「買い物難民」の発生があります。「近くに買物ができるお店が無くなった。」「車がない、運転できない。」「交通の便が悪くなった。」「買い物に出掛けるのが大変。」などの買い物難民は、全国で六〇〇万人にも及ぶと推計されています。北海道内ではコープさつぽろが二〇一〇年一〇月に買い物難民について実態調査をしたところ、自宅から半径五〇〇メートル以内に食品を販売するスーパー・店舗がない人たちが、推計約二七万人に上ることが分かりました。このうち、約二〇万人の方が、最寄りの生協店舗から車で片道一時間圏内で生活しています。コープさつぽろが、移動販売車「おまかせ便」を走ら

せることにより、道内の七〇%以上の買い物難民の方々にサービスを貢献できることとなります。

◇ 移動スーパー「おまかせ便」

買い物難民の方々に、持続的に貢献できるサービスの形とは何か。コープさっぽろは「宅配システムドック」で全道に商品をお届けしています。しかし、「実際に目で見て商品を選びたい」という組合員の声から、実店舗の必要性を感じていました。

元々、移動販売は一九九七年から夕張市の店舗のない地域で始まり、当初は一台、試験運行という形で始めた「おまかせ便」ですが、二〇一〇年度から事業拡大し現在では全道で二四台まで増加、高齢者率の高い地域から先行して導入を始め、全道三四エリアにまで広がっています。今後は全道をカバーするため一〇〇台の展開をめざしています。

商品棚

や冷蔵庫
を備えた
専用ト
ラックに、
生鮮食品
やデイ
リー食品



おまかせ便の車両外観



おまかせ便の車内

などの生活必需品を中心に約一、〇〇〇品目の商品を積み込み「移動式の小型スーパー」として地域の買い物困難な方の暮らしを支えています。

◇ 「コープ配食サービス」と「見守り協定」

高齢者の方々を中心に、毎日の夕食を

ご自宅にお届けする「在宅支援サービス」

高齢化社会の地域の課題には、買物難民以外にも、日々の買い物や調理が困難な高齢者世帯の方が増えていること、そして、

その世帯で何か異変があっても周囲には分からないことがあります。

そこでコープさっぽろは、「住み慣れた家・街で暮らしたい」、在宅で頑張る高齢の方々の願いに応えて配食サービスをスタートさせました。

二〇一〇年一〇月から開始した「配食サービス」は、

週六日（月・土）の毎日の夕食をお届けする、より密度の高いサービスを実現し、「今迄どおり暮らしたい」と願う高齢の方々への一助となることを目指しています。



配食サービス 普通食の例

コープ配食サービス スタート!!

| | |
|--------|--------|
| 498円 | 590円 |
| 2,400円 | 2,300円 |
| 1,992円 | 2,300円 |
| 1,484円 | 1,770円 |

※毎日違った献立なのでおきかせせん。
※自宅で作るより手間が省けて便利です。
※管理栄養士が監修し栄養バランスを考えた献立です。

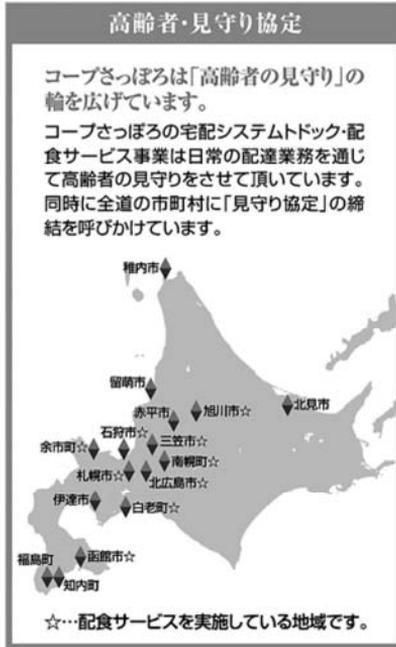
す。

高齢化社会に対応した地域貢献として

「高齢者の見守り」の輪を広げています

コープさっぽろの宅配システムトドック・配食サービスの事業は、日常の配達業務を通じて高齢の方々への見守り（安否確認）をしています。コープさっぽろと市町村との協力内容は、「ネットワーク参加型」「合同協定締結」「単独協定締結」の三つの形です。

配食サービスの配達時、「おじいちゃん、おばあちゃん元気？」「昨日はちゃんと食べた？」と声をかける。郵便受けに新聞がたまっている、昼間なのにカーテンを閉めている、声を



2011年3月末現在

かけても応えがないなどいつもと様子が違うなど異常を感じたら関係先に連絡することになっています。二〇一二年四月一日現在、一四市七町と高齢者の見守り協定を結んでおり数々の対応事例が報告されています。コープ配食サービスは、高齢化時代を迎える今こそ、地域の助け合いのネットワークの一つとして安全・安心の街づくりを願って取り組みを広げています。

「食の安全・安心」を守る

◇ 「コープさっぽろ農業賞」

「コープさっぽろ農業賞」は、北海道の安全・安心な食を提供している生産者や、消費者との交流に取り組み生産者を応援するため、消費者の目線で表彰・応援する取り組みとして二〇〇四年に始まりました。第三回目の二〇〇六年には漁業の部が加わり、昨年までの応募総数は農業の部八五二件、漁業の部六二件を数えました。農業賞の取り組みは、志のある生産者にとっては大きな励みとなり、消費者にとっては農業への理解を深める貴重な交流の場となります。「地産地消」を大きく前進させたことはもちろん、生産者と消費者が手を携え交流を深めることで「北海道の元気づくり」に大きく貢献することができました。

コープさっぽろ農業賞は二〇一一年度の開催をいったん区切りとして、次回は二〇一四年の新しいステージ開催に向けて、これまでの活動と理念を引き継いだ取り組みに着手しています。

◇ 「食べる・たいせつフェスティバル」

コープさっぽろが主催する「食べる・たいせつフェスティバル」は、安全・安心な食のネットワークをみんなで作り、地域に根ざした食育や食の活動を進めていくことを目指した大型の食育イベントです。

二〇一〇年度と二〇一一年度は全道各地で開催し地元の生産者や団体が多数出展しました。参加した子供たちは試食やクイズ大会などの企画を通して楽しく食にふれることができ、豊かな人間性を育み、食べることの大切さを学ぶ場にもなっています。

◇ こだわりの「北海道一〇〇」

北海道一〇〇は、二〇〇八年一月末に発生した中国産冷凍餃子事件を教訓に、北海道の豊かな環境のもとで生産された原材料を使用して、道内で製造・加工された道産食品に「北海道一〇〇」ロゴマークを添付し、道産食品に対する消費者の信頼確保と道産ブランド向上を図るとともに、道産食材の地産地消に貢献することを目的に作られました。

「北海道産こだわりの餃子」や「お米と小麦の北海道食パン」がその始まりでしたが、二〇一二年三月には商品数が一四四品目、二一億八〇〇万円の利用をいただくまでに成長してきました。

「食べる・たいせつフェスティバル」来場者数

| | 2010年度 | 2011年度 |
|-----|---------|---------|
| 札幌 | 2,464名 | 1,802名 |
| 苫小牧 | 2,060名 | 1,100名 |
| 小樽 | 一名 | 941名 |
| 帯広 | 1,578名 | 2,119名 |
| 函館 | 1,500名 | 1,250名 |
| 釧路 | 438名 | 2,347名 |
| 北見 | 2,534名 | 1,208名 |
| 旭川 | 2,000名 | 3,200名 |
| 総数 | 12,574名 | 13,967名 |



食育イベントの様子

◇ 道産米で育てた「黄金そだち」シリーズ

「よりよい食の環境づくり」は「黄金そだち」はコープさっぽろの大きな使命です。「黄金そだち」とは、道内の水田休耕地で栽培した飼料米を一定量飼料として与えた畜産品の総合名称としてコープさっぽろでつけたブランド商品です。お米はコープさっぽろ指定農場で育てた道産飼料米を使っています。肉や卵、牛乳の生産に欠かせないエサである穀物のほとんどを、日本は海外から輸入しています。国産飼料米の展開は地産地消の推進や食料自



東川町飼料用米現地実証圃



こめいろゆめたまご

給率向上への大きな一歩であり、消費者への食の安全・安心を守る原点と捉えて取組んでいます。

- ① 黄金そだちの「こめいろゆめたまご」
- ② 黄金そだちの「たまご」
- ③ 黄金そだちの「別海牛乳」
- ④ 黄金そだちの「美瑛豚」

環境活動

◇ 「コープ未来（あした）の

森づくり基金」による植樹活動

コープさっぽろの店舗でレジ袋を辞退すると、一人につき〇五円が基金に積み立てられ、北海道の森づくりに役立てられる仕組みが「コープ未来（あした）の森づくり基金」です。組合員一人一人の環境への意識が森づくりへとつながることを目

指し二〇〇八年七月に設立されました。基金では行政や各団体と協力して取り組む植樹・育樹活動、森林を育てる団体の支援、組合員が環境や自然への関心を深めるための学習や体験を支援する活動を行っています。二〇一一年度は、各自治体や他団体との植樹活動が進み、「コープの森植樹祭」は全道九カ所で開催され植樹参加者二、三四七名、植樹本数一万本を上回る植樹活動が行われました。また、「未来（あした）の森づくり基金」の取組みをアピールし、森づくりと人をつなぐ活動がより一層全道各地に広がるように、広報誌「モリ・イク」を発行して広報活動を充実させています。

基金による植樹

- ・ 2010年度 3,087名 11,892本
- ・ 2011年度 2,347名 10,741本

行政との協定植樹（コープの森）

- ・ 2010年度 8地区735名 3,920本
- ・ 2011年度 9地区698名 4,540本

その他植樹（2011年度）

- 漁協女性部植樹活動 1,507名 5,214本
- その他植樹 168名 987本
- （富良野植樹／当別神居尻の植樹／後藤農園植樹／野付漁協コープの森植樹）



植育樹

◇ 循環型「エコセンター」でリサイクル

コープさっぽろエコセンターは、循環型社会の実現をめざし、全道の店舗や組合員の家庭から回収した資源物を集め、再生資源として利用するために圧縮や容積を減らす



コープさっぽろエコセンター

処理をする施設です。二〇〇八年に江別市に開設され資源は全道各地で配送を終えたトラックで回収して戻るといふ、環境負荷をかけない循環型の事業を行っています。複数の資源物の処理を行う屋内施設は道内でも珍しく、エコセンターは積極的に施設の解放を行っており、組合員だけではなく学校の児童・生徒、さらには他事業者や自治体関係者の見学など、さまざまな方の環境学習等に役立てられています。

◇ 環境にやさしい大型木造店舗

「ECO-OP（イイコープ）西宮の沢店」

コープさっぽろは、全体の環境指針として二〇二〇年までに二〇〇七年度比で四〇%のCO₂排出量削減を重要な柱としました。それには大きなCO₂排出源である店舗の作りを見直し、環境に負荷をかけない店舗を作ることが必要不可欠になります。コープさっぽろは室蘭工業大学と共同でCO₂削減と省エネルギーをめざす「エコ店舗開発プロジェクト」の研究を進めてきました。その研究の成果が新しい店舗で実現しました。二〇一〇年一〇月にオープンした新店舗「ECO-OP（イイコープ）西宮の沢店（札幌市）」は、今までの鉄骨造りの店舗と比べ木造建築にこだわり、使用するエネルギー、冷蔵ケースにいたるまで、さまざまな工夫とアイデアで、五〇%のCO₂削減を実現することができました。また、二〇一一年一〇月には道内で唯一、「国内でも前例のない道産木材を活用した大型店舗であ

ること」、「最新のエコ設備を設置しエコ店舗のトップランナーをめざした施設コンセプト」が評価され、二〇一一年度グッドデザイン賞の商業・産業用途、建築物・空間分類に選ばれています。二〇一一年一二月現在、同じコンセプトのECO-OPのお店が五店舗になっっています。

＊ECO・OP：エコロジーコープの略でCO₂削減と省エネルギーを目指す店舗



ECO-OP 西宮の沢店

◇ 「BDFトラック」三〇〇台

パレードでギネス世界記録に認定

全道で展開しているコープ宅配システム「トドック」では、環境対策として二〇〇八年より回収した天ぷら油などをBDF（バイオ・ディーゼル燃料）化して、トドック・トラック車を走らせています。二〇一〇年九月には、BDF車が三〇〇台に達し、世界一の保有台数企業となったことから、苫小牧市の協力のもと、苫東地区にて環境への取組みと交通安全を呼び掛け



300台のBDF車が一齐走行

るパレードを開催、三〇〇台のBDFトラックが四・五kmを一斉走行し、ギネス世界記録に認定されました。

コープさっぽろは、このイベントを通じて、資源のリサイクルを組合員および道民の皆さんに広く呼びかけ、さらにCO₂削減による地球温暖化防止に積極的に取り組んでいきたいと考えています（二〇一二年六月現在のBDF車保有台数：三五〇台）。

＊BDF（バイオディーゼル燃料）：化石燃料（軽油）の代替燃料として、菜種油や家庭から出る廃食油（てんぷら油）などを原料にしたディーゼルエンジン用燃料。

◇ ホツキョクグマ応援プロジェクト

コープさっぽろの宅配システムトドックは、キャラクターに「シロクマ」を採用しています。札幌市円山動物園では、二〇〇八年一二月にホツキョクグマの双子の赤ちゃんが誕生し、世界的にも貴重な飼育下での繁殖として大きな話題を集めました。二〇〇九年四月、コープさっぽろは、円山動物園と協定を結



円山動物園のホッキョクグマ

び、円山動物園のホッキョクグマを応援するプロジェクトに取り組みました。

ホッキョクグマは絶滅危惧種に指定されている動物です。円山動物園のホッキョクグマのファミリーを、コープさつぽろのシロクマ「トドック」が応援することに、絶滅危惧種のホッキョクグマに対する理解が広がり、温暖化防止などの地球環境への意識が高まることを願い応援プロジェクトを始めました。二〇一〇年八月、おびひろ動物園、二〇一一年一月、釧路市動物園と同様の協定を結び、「自然と地球環境を守るう」というテーマとした協働運動に積極的に取り組んでいます。

むすび 一人は万人のために万人は一人のために

いま私たちは、毎日の生活を多くのエネルギーに支えられて豊かに暮らしています。

しかし、一方でエネルギー消費がCO₂を排出し、自然環境に様々な影響を及ぼしていることも、また否定のできない事実と言えます。二〇〇八年、コープさつぽろは自然環境に恵まれている北海道をより元気にしていくために、環境活動に積極的に取り組むことを決意してセカンドロゴをCO₂から「CO₂

(CO₂削減)のoperation(事業・活動)に変更しました。ロゴマークには「one for all, all for one」の言葉が一体化されており、「一人は万人のために、万人は一人のために」の強いメッセージが込められています。

二〇一二年は国連が定めた「国際協同組今年」です。世界各国で、グローバル化した市場経済がもたらす混乱が広がっており、協同組合はその暴走を抑制するための存在として期待されています。私たち一人ひとりも「向こう三軒両隣り」みんな幸せを共有する社会の実現を目指していかなければなりません。自らの生活を今一度見つめ直し行動に移すこと、その積み重ねは必ずや社会を動かす大きな力となっていくはずです。

コープさつぽろの多彩な活動、安全・安心で住みよい北海道を作ろうと先頭に立つて行動する姿に、かつての開拓者精神を垣間見ることができました。私も北海道民の一人としてコープさつぽろの今後のCSR活動に、注目と期待を寄せ大きなエールを送りたいと思います。



一般社団法人 北海道地域農業研究所

特別研究員 田代 重彦